

大会への参加は、会員・非会員を問わず、事前の申し込みが必要です。
ZoomのIDとパスコードは、大会前日のリマインドメールでお知らせします。

一般財団法人 語学教育研究所

2022年度研究大会プログラム

2022年11月13日(日)

全体会(午前) [ルーム1]

入室開始 9:45~

司会: 栖原 昂 (筑波大学附属中学校)

1. 開会式10:00 ~ 10:10

挨拶: 研究所所長 小菅 和也 (武蔵野大学名誉教授)

2. 協議会 I [ルームを選んでお入りください]10:10 ~ 12:10

協議会 A [ルーム1]	小学校英語教育研究: 「読む力」を育む指導 《第10研究グループ》 小学校4年間の英語教育において、文字といつ頃出会わせ、どのように“慣れ親しませる”ことで、中学校以降の英語学習で必要とされる「読む力」につなげることができるのでしょうか。英語を使い合う経験を通して音声の土台を作り、子どもたちの「読めるかも」「読みたい」という気持ちを引き出しながら文を読めるようにしていく工夫や手順、素材例を具体的に示して提案します。 発表者: 仲光 直子 (狭山市英語活動支援員)、第10研究グループ研究員
協議会 B [ルーム2]	授業研究: 高校2年生「コミュニケーション英語II」 《第5研究グループ》 1人の教師の授業をビデオに撮り、それを分析して授業改善を目指す過程を提示します。今年度の授業者は、教員歴11年目の教師です。その間、語研でも勉強を続けてきており、積極的に授業実践をしてきました。しかし、本当に生徒に力をつけていくことができているのか、細かくその内容を分析し、授業で私たちが行うべきことを再確認していきたいと思えます。 司会者: 日高 由美子 (東京都立立川国際中等教育学校) 授業発表者: 杉内 光成 (獨協埼玉中学高等学校) 助言者: 小菅 敦子 (武蔵野大学 他)
協議会 C [ルーム3]	会員発表(公募) 司会者: 北出 義伸 (立正大学付属立正中学高等学校) 応募締切 9/23(金) 語研HP>お問い合わせ窓口>応募フォーム

全体会（昼） [ルーム 1]

3. 贈賞式12:15 ~ 12:35

- 1) パーマー賞
- 2) 外国語教育研究賞
- 3) 若林俊輔奨励賞

休憩・広報タイム 12:35 ~ 13:10
 全体会のルームで、語研の活動紹介や協賛企業からのお知らせがあります。

4. 協議会 II 【ルームを選んでお入りください】13:10 ~ 14:40

協議会 D [ルーム 1]	<p>中学高校英語研究：生徒が「自分の言葉で思いや考えを表現する」授業を目指して 《第 26 研究グループ》</p> <p>「英語コミュニケーション I」の 2 つの授業ビデオをご覧ください。生徒が自分の思いや考えを表現できるようになるために授業者がどう授業を組み立てたか、そして生徒がいかに変容したかをご覧ください。改善点や評価の仕方と、それぞれの現場でどのように応用できるかを参加者の皆さんと考える場とします。</p> <p>司会者：石川 ひろみ（所沢市立北野中学校） 発表者：鶴澤 菜摘子（昭和学院秀英中学校・高等学校） 浅沼 奈美（大妻嵐山中学校高等学校）</p>
協議会 E [ルーム 2]	<p>談話文法研究：「英語コミュニケーション I」のまとめの活動を談話文法の視点から考える 《第 22 研究グループ》</p> <p>2022 年度から高校の新しい学習指導要領が学年進行で施行されています。本発表では、新規科目である「英語コミュニケーション I」の教科書を、談話文法の視点を取り入れて指導し、まとめとしてどのような活動を取り入れるべきかについて考えます。</p> <p>司会・発表者：馬場 千秋（帝京科学大学） 発表者：八宮 孝夫（筑波大学附属駒場中・高等学校）</p>
協議会 F [ルーム 3]	<p>指導法研究：高校 3 年生の難易度が高い教材の扱い 《第 3 研究グループ》</p> <p>難易度が高い教材の授業を、解説と答え合わせだけで終わらせず、生徒が教室で共に学ぶ意味のある授業にすることについて考えます。限られた授業時間の中で、説明の仕方の工夫や、言語活動を増やす方法を提案します。</p> <p>司会者：郷司 雅子（埼玉県教育委員会） 発表者：中尾 愛（茨城県立水海道第一高等学校） 木幡 琢人（富士見中学校高等学校）</p>

全体会（午後） [ルーム 1]

5. 特別講演：Mediator としての小・中・高英語教師の役割14:50 ~ 16:00

近年、ALT が授業に参加し、IT 機器の活用も進み、生の英語に触れる機会は増えた。しかし、そのような環境の中で、日本人英語教師は英語の言語形式に関する知識・技能と、実際の英語使用における積極性や文化的配慮の 2 面を統合した「実践的コミュニケーション力」を指導できているだろうか。ALT におまかせとか、ICT 機器を操作するだけでではなく、英語と学習者の両者を媒介する真の“mediator”としての英語教師の在り方を考えてみたい。

講演者：新里 眞男（元関西外国語大学）

6. 閉会式16:00 ~ 16:10

挨拶：研究所理事長 淡路 佳昌（大東文化大学）